

和白干潟を守る会

2004年度活動報告

2005.2.26 和白干潟を守る会事務局

活動方針 1. 和白干潟での自然観察会をお世話し、多くの市民、特に子どもたちに自然の大切さを伝えることを通して、自然保護の機運を高める。

1. 和白干潟自然観察会

6月に和白干潟自然観察会の案内状とパンフレット「環境教育シリーズ I・II」を福岡市内および周辺自治体の小学校・保育園と公民館・市民センターなどに送付した。

小中学校や保育園などから多数の申込みがあった。2004年度（1月～12月）中にお世話した観察会は次の通り。保育園2回81名、小学校5回358名、中学校3回72名、高校1回45名、大学2回21名、公民館1回53名、合計630名（人数はすべて延べ）。その他に、大人のグループや海外からの訪問者など延べ81名の見学をお世話した。また、守る会主催の観察会を2回開催し、延べ21名の参加があった。それらを合計すると2004年度に延べ732名の観察会・見学をお世話したことになる。

2. 第8期和白干潟自然観察ガイド講習会

和白干潟での自然観察会のガイド養成・研修のため、8月と10月に全2回の第8期自然観察ガイド講習会を開催した。

第1回 講師・高橋 徹氏 27名参加

第2回 講師・菊屋奈良義氏 21名参加

3. 第16回和白干潟まつり

11月28日（日）に毎年恒例の干潟まつり（第16回）を開催した。主催は、グリーンコープ生協福岡・北九州 福岡東支部と守る会で構成される「和白干潟まつり実行委員会」。参加者は約600名だった。

4. クリーン作戦と自然観察（毎月第4土曜日）

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場からアシ原付近を中心に清掃活動・自然観察を12回、水質調査を12回実施した。各回8～32名参加、延べ232名。ゴミ袋は48～152袋。粗大ゴミが多くあった。アオサも回収した。回収ゴミは年間総数975袋。

定例のクリーン作戦以外でも清掃を行った。参加者延べ121名でゴミ袋総計1099袋。

4月24日（土）は干潟を守る日2004と春のビーチクリーンアップに、9月25日（土）は国際ビーチクリーンアップに参加した。

活動方針 2. 和白干潟の大切さとその変わりつつある姿を、広く社会に訴えるため、和白干潟およびその周辺の生物の調査に力を入れる。

5. 調査

前出の水質調査のほか、10月29日と11月17日にブイを使った和白海域の潮流調査を行なった。また、以下の調査に協力した。

- 1月 和白海域水鳥調査（日本野鳥の会福岡支部・IWRB 国際水禽湿地調査局）
- 1月～2月 ズグロカモメ調査（WWF ジャパン）
クロツラヘラサギ調査（香港バードウォッチング協会）
- 1～2月、12月 モニタリングサイト1000 冬季シギ・チドリ調査（環境省・WWF ジャパン）
- 4月～5月 モニタリングサイト1000 春季シギ・チドリ調査（環境省・WWF ジャパン、鳥類保護連盟）
- 5月～8月 海岸植物群落調査（日本自然保護協会）
- 9月 ゴミ内容調査（国際ビーチクリーンアップ）
- 8月～9月 モニタリングサイト1000 秋季シギ・チドリ調査（環境省・WWF ジャパン、鳥類保護連盟）

活動方針 3. 悪化しつつある和白干潟の環境を保全するため、博多湾人工島計画の凍結・縮小を含めた和白干潟保全策を市民や関係機関に訴える。

6. 和白干潟通信

1・4・7・10月に「和白干潟通信」を計4回（No. 69～72、各4300～4500部）発行した。毎号B5判8ページで和白干潟に関する情報を発信している。配布先は、会員、マスコミ・行政関係、和白干潟周辺の家庭。各号につき数回の編集会議を開いて作成した（編集委員は5名）。発送作業はみんなで行なった。手配りでは、和白・奈多・美和台・高見台・香住丘・御島崎・香椎の家庭に配布した。

7. 和白干潟を守る会ホームページ <http://www.bekkoame.ne.jp/~miyakodori/>

会の活動や和白干潟の生物などに関する情報を発信している。

8. その他の広報活動

(1) 情報の発信

新聞や雑誌、他団体の会報等に会の活動予定や鳥情報を発信した。雑誌等に和白干潟を紹介する文章を寄稿した。東区役所と東市民センターとコミセンわじろに「クリーン作戦と自然観察」のお知らせを毎月掲示していただけた。

(2) 講演等

西新小学校（9月）や東区ボランティアセンター（12月）などの依頼により和白干潟の自然やその保護活動についての講演を行なった。

(3) 取材協力

新聞社、テレビ局、ラジオ局、雑誌などからの取材に協力した。

9. 写真絵はがき「みんなの和白干潟」の発行

2003年11月に和白干潟が国指定鳥獣保護区に指定されたことを記念して、8月に写真絵はがき「みんなの和白干潟」を発行した。絵はがきにする写真は公募した。採用した写真は8種類で、2枚ずつ組にして4セットとし、各セット1000部、合計8000枚発行。会員には1セットずつプレゼントした。

10. 対外協力・参加活動、働きかけ

- (1) 和白海岸定例探鳥会（野鳥の会福岡支部）に協力・参加。毎月第2日曜日、計12回。
- (2) 他団体のイベントに参加した。
- (3) 意見書送付・アンケート回答

他団体や行政などの依頼により、環境問題や環境教育についての意見書を作成したりアンケートに答えたりした。

- (4) 和白干潟のアオサの件で港湾局に連絡し、アオサを回収してもらった。

*

*

*

11. 定例会議・総会（毎月第4土曜日）

毎月原則として第4土曜日、守る会事務所で「定例会議」を12回開催。そのうち2月分は「総会」として開催した。出席者は各回9～15名。総会で活動方針を決めるほか、会の活動に関する重要な事項は定例会議で審議して決定した。

12. 販売・贈呈

観察会に来た学校・公民館等に和白干潟の写真集を贈呈した。また、きりえはがき、しおり、絵本『コメツキガニのたび』、博多湾市民の会の出版物なども委託販売したり、贈呈したりした。

13. 助成

- (1) イオン環境財団助成金

2003年11月から2004年10月まで（1年間）、和白干潟の保全と環境教育活動のために130万円の助成を受けた。引き続き、2004年11月から2005年10月まで（1年間）、和白干潟の保全と環境教育活動のために130万円の助成を受けている。

14. 寄付・寄贈

- (1) 故中村十三さんのご遺族より15万円の寄付を頂いた。
- (2) 望年会においてオークションのために会員の方々より多数の品物の寄贈を受け、その収益を寄付していただいた。